緑の園　1月号

ヒルトップハイツ
グリーンプラザ
デイサービスセンター
だより

第９１号
令和６年１月１日発行

Burn/Deep Rurple(1974)

あけましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝ける新年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年のお正月は社会福祉法人丸瀬布社会福祉協会にとりまして５０回目の節目となるお正月であります。

昨年は特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツならびに丸瀬布デイサービスセンターがまるせっぷ厚生クリニックの２階病棟と１階調理室へ移転するという全国的にも病院と特養が同居している例はめずらしく、これからの新しい施設の在り方にもなろうかと思います。

さて、世間一般的に今後ますます普及するであろう〝AI〟に関しての話題ですが、今後〝AI〟によってとってかわられる現在の仕事は１０～２０年後にはおよそ５０％にも及ぶという驚きの調査結果があるそうです。

そんな中、昨年一気にその存在が取りざたされたものの一つに〝ChatGPT〟というものがあります。

その〝ChatGPT〟に福祉の仕事は将来〝AI〟にとって代わられるかを聞いたら、「人間の倫理的判断力、人間の温かさ、創造力等は代替えできない…。」と答えたそうです。

我々〝福祉〟の人間にとっては仕事を奪われず一安心といったころでしょうか…。

例えば夕暮れが早まるこの時期、そわそわし始め家に帰ると言い出すご利用者さんか過去におられました。

なぜこの時間帯というか薄暗くなった時にそのような言動・行動が現れるのかの原因は「子供の食事支度のため」だったり「主人が帰ってくる」とか過去の生活と現実がごちゃまぜになってる状況なのでその人の理由に対処する必要があります。

当然ながら「帰りたい理由」は人それぞれなので一つの答えだけではありません。

たくさんの「帰りたい理由」の一つ一つの蓄積がひょつとして「答え方の一例」として瞬時にAIであれば出てくるようになるのかななんて思ったりもします。

あと、先日のグリーンプラザの会議の中で「言葉の言い替え」を考えてみようということになったんですが、そんなことにも有効なのかなと思ったりもしますが、や

っぱり、「私の服を〇〇に盗まれた」とか「朝方、誰かが私の部屋に入ってきて肩をトントン叩くの…。」といわれたところで〝AI〟は「警察に申し出てください」とでもいうのかな?(それではだめだ)

職員の皆さんはこの手の訴えにあの手この手で時間をかけて対処しています。

そう考えるとまだまだ人間である私たちの方にアドバンテージがあるような気がします。

私はすべての事柄に正論ばかりで対処することが必ずしも正しいこととは思いません。(時に正論が暴力になることも)

何より私たちは「安心してもらうこと」を仕事の中心としています。(安心してもらえる言葉づかいを考えたり…。)

私は本当のことを伝えることが時にその人をとても傷つけてしまう場面に何度も遭遇しました。

事実を伝えることが将来に与える影響を考えたときにどれほどのメリットがあるのか、知らないままでいることの方が穏やかに暮らしていける場合もあると思います。

すべてが本当のことを隠してしまうということではありませんが相手を傷つけない**優しいウソ**は私たちの仕事にとって**あり**だとは思います。(ウソばかりでは見破られるのでダメですが…。)

でも、実際のところウソをつくからつらくなるんです。

板挟みになってしまうんですよね。(ホント、わたしは太ってますけど痩せちゃいます)

こうやっていうと社会福祉を仕事にしている人はウソつきな人と思われるかもしれませんが、あくまでも私個人の想いです。ほかの社会福祉に従事している人たちの考えを代弁してるわけではありませんのであしからず。

と、新年早々つまらないお話をしてしまいました。

新しく迎えた令和６年が皆様にとりまして幸多い一年でありますようご祈念申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。(おばら)

１２月の行事…クリスマス会特集です

Burnアルバムが発表された昭和４９年に丸瀬布社会福祉協会が誕生しました。５０年ってすごいですね今月もよろしくです。(おばら)